

# 古城址めぐり

1

## 「宗高尾城」

宗高尾城は、上平良の可愛団地南標高九三メートルの宗高山にあり、東西に切通し状の堀切を設けて、長尾の峯から独立させています。

本丸である頂上部分の広さは約九〇平方メートルあり、南の宮内側は比高約七〇メートルで、容易に登ることが出来ない急斜面です。

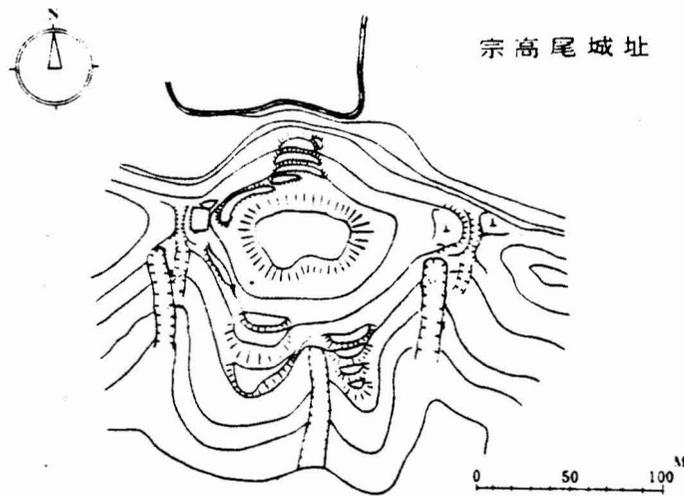
南斜面の中央附近に堅堀を設けており、両側に七段の平壇があります。

平良側には六段の平壇があり、麓には居館跡と思われる力所もありますが、詳しい調査をしないと断定できません。

又、北麓にある小川は不自然な流れ方をしており、人工的に城山麓に迂回させて、堀の役目をさせていたものと思われます。

宗高尾城には、叢島神主家の有力な神領衆（叢島社の神頭と称された

宗高尾城址



佐西郡に古くより土豪として成長したものの）である、糸賀（糸川）平左衛門尉宣棟が居城していました。

糸賀宣棟は、桜尾城の叢島神主友田興藤に従って、各地に転戦して大内勢と戦い活躍しています。

宗高尾城も間近まで開発の波が押し寄せられており、破壊から守りたいものである。

## 民俗資料館の建設を！

堀 ちず子

あちこちの町で民俗資料館が建設されている。

廿日市町も歴史は古く、重要な建築物や、仏像等も数多い。

又、個人所有の古文書や生活道具、美術品等大切に保存されているが、中には近代化の波に押され、貴重な建物がこわされたり、子孫の代にならぬ、古文書や古い道具に興味があれば焼き払われたりする例もある。

そんな時、町に歴史資料館があったら、寄贈してもらえば良いが、保存する場所がなければ、どうする事も出来ない。

歴史資料館の建設の一日も早いことを望んで止まない。

